

水深の深い岸壁 (-14m) の整備により、常陸那珂港が建設機械の生産・輸出拠点として発展し、CO₂も約70%削減



常陸那珂港には5万トン級の大型船が接岸できる、水深14mの岸壁が整備されており、このような大水深岸壁は国際競争の上で必須の条件となっている。

その結果、大手建設機械メーカーのコマツと日立建機が相次いで新工場を建設し、常陸那珂港に建設機械の生産・輸出拠点が形成されました。

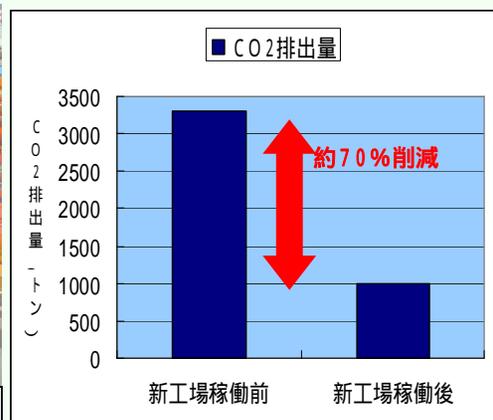
建設機械メーカーにとっても、臨海部への立地により、物流の効率化が図られ、大幅な輸送コストやCO₂の削減が実現しました。



コマツ茨城工場で生産された建設機械



北埠頭に並び船積みを待つ建設機械



コマツの新工場稼働によるCO₂削減効果

- ・出荷距離の短縮によるCO₂排出量削減 **1,523トン**
従来の走行距離 (真岡工場 - 常陸那珂港) 100km
 - ・新工場稼働後の走行距離 (茨城工場 - 常陸那珂港) 4km
 - ・内航船活用によるCO₂排出量削減 **805トン**
- 合計2,328トン 約70%削減**